

## 1. 教員および授業の概要

①教員名： 池田 麻衣子 (Ikeda Maiko)

②担当科目

博士前期課程： 日本語特別演習 I・II、北東アジア研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

立命館大学大学院言語教育情報研究科修士課程修了

ハワイ大学大学院東アジア言語・文学研究科日本語専攻博士課程前期課程修了

ハワイ大学大学院東アジア言語・文学研究科日本語専攻博士課程後期課程修了

学位：博士（日本語）

④所属学会

- International Pragmatics Association (IPrA)
- American Association for Applied Linguistics(AAAL)
- 言語文化教育研究学会
- 日本語教育学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ツーリズムディスコース
- 持続可能な社会の実現を目指す言語教育
- 言語景観
- クリティカルリテラシー
- 教材開発

⑥研究指導方針

社会が抱えるさまざまな問題について、社会言語学の知見を応用しながら、言語・コミュニケーションの側面から課題解決を目指す研究に関心を持つ大学院生を歓迎します。

研究指導では、学生一人ひとりの問題意識を大切に、先行研究の読解、調査方法の設計、フィールドワーク、データ分析、論文執筆まで段階的に支援します。社会の中で実際に起きている言語問題を多角的に捉え、自ら課題を発見し、解決策を提案できる力を養うことを目指します。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- 第言語習得論
- 談話分析・相互行為分析
- ツーリズムディスコース

- 教材開発
- 環境問題と言語使用の関係

## 2. 研究業績リスト

### ①著書

池田麻衣子・村田和代（2022）「レジリエンスはいかに発揮されたか。オンライン授業への対応のプロセスに着目して」村田和代（編者）『レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育』第4章、pp41-pp59. ひつじ書房

池田麻衣子（2024）「学習者の行為主体性が第二言語語用論能力に及ぼす影響」第8章クック峯岸治子、高田明（編著）『日本における言語社会化ハンドブック』ひつじ書房

### ②論文

池田麻衣子（2022）「多様な生物との共生を目指す日本語教育」『The 28th Princeton Japanese Pedagogy Forum』 p.132-146 2022.

Ikeda, M. (2022) Stance-taking and public health: Understanding and combatting vaccine. Discourse through stance 社会言語科学学会発表論文集 pp.70-pp74.

Higgins, C and Ikeda, M (2021). The materialization of language in tourism networks, *Applied linguistics review*, Vol.12 (1), p.123- 152.

池田麻衣子（2004）「聴解ストラテジーを取り入れたリスニング教材」『コンピュータ利用教育学会論文集』

## 3. 学生に対するメッセージ

研究というと難しいものだと感じるかもしれませんが、しかし、研究とは、自分の興味のあることや疑問に思っていることを探究していくものであり、そこには常に新しい発見があります。新たなことを発見した時の喜びや、自分が抱いていた疑問が少しずつ明らかになっていく過程には、大きな面白さがあります。そのような研究の喜びや楽しさを、皆さんと一緒に分かち合っていければと思います。

私の現在の主な関心は、社会に存在するさまざまな問題について、社会言語学の観点からどのように課題解決へつなげていけるかという点にあります。ことばやコミュニケーションは、人と人との関係、地域社会、多文化共生、教育、観光など、さまざまな場面と深く関わっています。社会の中で起きている問題を多角的に捉え、ことばの側面から一緒に考え、探究していければと思います。